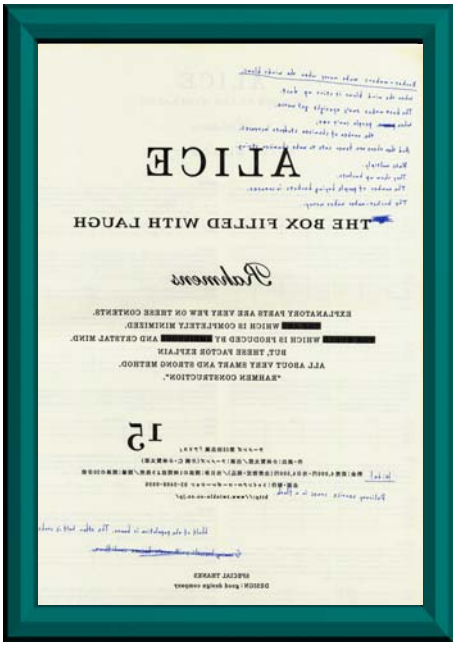
Cacco

作品名	作家名	感想	評価
ＺＯＯ	乙一 集英社	最後の書き下ろし作品を入れてちょうど１０編からなる短編集。「カザリとヨーコ」「陽だまりの詩」の二編は角川スニーカー文庫作品を思わせる青春小説仕立て。他はホラー、怪奇、ミステリーの色がもっと強くなる。「神の言葉」「ＺＯＯ」：殺人を犯しても犯人が逃げているのは警察なんてものじゃなく、ひたすら自分の中に住むもうひとりの自分なのだ。自分で自分を説得することがいかに難しいか。「冷たい森の白い家」「ＳＥＶＥＮ　ＲＯＯＭ」：ホラーのはずだけれど読めるのは、主人公たちが切なく健気であるから。ファンタジー･ホラーと名づけちゃおう。「落ちる飛行機の中で」：なんだか急いで書き下ろしちゃいましたって感じ。こういうテンポよく読む作品こそラストをひねってほしかったなぁ。乙一作品て女の子はたくましく活発で男の子は病的といっていいほど内向的なことが多い。きっと同性の登場人物には自分を重ねるんだろな～。	☆☆☆☆
サイレントリー	鈴木光司 新潮文庫	中年期にさしかかった男女に視点を置いた７つの短編集。「リング」の作者が書いたとは思えない静かなお話。であまり面白くない。頭の中で作られた話のようで人間味がない。巻末に田口ランディが解説を書いていてこちらのほうに全く同感。自身を正当化する人たちが主役の短編集みたいだ。鈴木光司本人をテレビで見ると自信過剰でなんかやな男なんだよな。	☆☆
五千回の死	宮本輝 新潮文庫	短編集。工事現場の過酷のアルバイトにつく大学生がそこで誰からも見捨てられた男から手紙を預かる「トマトの話」、脇道に逸れずにいられない小学生の息子の後をつけていく母親の話「力」、心の病気から小さな金物店に再就職せざるを得なかった男の話「バケツの底」。それぞれ味わい深く面白い。	☆☆☆☆

小林賢太郎 戯曲集	小林賢太郎 幻冬舎	ラーメンズの小林賢太郎による戯曲集。「椿」「鯨」「雀」という１文字タイトル公演掲載。	☆☆☆☆

【ラーメンズ第15回公演 ALICE】1月19日 本多劇場

行ってきました、ラーメンズ。全国ツアーの皮切りは下北沢の本多劇場。またまた若い子に混じってきました。観客年齢層はミスチルより若いかも。下北沢という土地柄かみんなくだけたファッションで、どこに行ってもババは浮いた存在になります(-_-;)ヨンさまの追っかけならファン年齢はぴったしなんだけど、いまいちその気になれない。やっぱ異種空間に混ざるほうが面白いもんね。



ＡＬＩＣＥ
ポスター →
印刷ミスじゃありません。おしゃれです。

←本多劇場･正面入り口
舞台はビデオで見たとおりいたってシンプル。
小林賢太郎は意外と大きくて、片桐仁は意外と小さかった。

本多劇場は駅から近い割りにわかりにくく**かずくん**が一緒じゃなかったら開演に余裕で間に合わなかった。下北沢ってとこはゴシャゴシャした町です。
今回はうさおも行く予定だったのに、突然の出張で行けなくなっちゃった。あんまり詳しく書くとまた治りかけた傷口が開くといけない。

帰りはみんなでラーメンズを語りながら乾杯。

恋はいつも 未知なもの	村上龍 角川文庫	まだ誰もはっきりとその場所を知らないジャズバーを探す広告マンを主役にした短編連作。そこは欲望と能力のタイミングがずれた時、なにかをあきらめた時、男たちにその扉を開ける。バーに行く権利を持つ人種はある程度仕事に成功した知識層に絞られるってところがいかにも村上龍が好みそうだ。やなやつだな～と思いつつ読んでしまうのはそれぞれの短編の最後に載っているスタンダード曲の訳詩がいいから。人生、恋が最上とは思わないけれど、「なにがなんでもあなたが好きなの」なんて世界も悪くないなと思います。	☆☆☆★
ドラマチック チルドレン	乃南アサ 読売新聞社	登校拒否や閉じこもり、非行などの問題を抱えた青少年を親元から預かり、共同生活を送る家「はぐれ雲」を運営する川又夫妻の物語。１６人ほどの子供を常時預かる中で、恵というひとりの少女の中学から大学へ進む過程を中心に描かれる。乃南さんだけどミステリーではなく純粋に少年少女の旅立ちの話。淡々と読めます。	☆☆☆
パークライフ	吉田修一 文藝春秋	2002 年芥川賞受賞作品。パークライフ：日比谷公園で午後のひとときを過ごす互いの名も知らない男女が軸に。どうってことない小品としか思えない。今の芥川賞ってこんな感じ？もっと新人の強烈な個性みたいなのを期待してしまう。Flowers：こちらのほうが人間像ははっきりている。でも何が言いたいんだかよくわからない。	☆☆★
青春１８きっぷ の旅	雑誌 ＪＴＢ	「青春１８きっぷで廃線跡を歩く」。巻末の全国廃線地図が面白い。	☆☆☆☆
わが町の昔と今 ⑧港北区続編	雑誌 とうよこ沿線	前回は取り寄せしたものを菊名の書店で発見。港北区も買ってしまいました。ここはグリコちゃんが住んでいて神奈川区鶴見区と隣接している広い意味での地元です。とうよこ沿線の会員になったうさおは頻繁なメールやお花見に誘われたりしています。わたしはあんまり年齢層の高い集りには興味がないのです。	☆☆☆☆

塔の断章	乾くるみ 講談社文庫	「塔の序章」から「塔の解説」まで四つの章からなる本格ミステリー。最初の章で「さて犯人は誰でしょう？」という作者の挑戦が始まります。最後の章である「塔の解説」を読むと読者を間違った推理に誘導するように作っていったとあり、そういう罠に見事にはまる楽しみもあります。先に読んでいたＴＩＣＡさんに三度のメールを送り、自分の推理を報告しながら読めたのは楽しかった。あのトリックがわかったんだから「当たり！」って評価が欲しかったな。だめ？	☆☆☆☆
小生物語	乙一 幻冬舎	ＴＩＣＡさんに乙一作品は全部貸してもらっているので、たまには一冊くらい自分で買ってＴＩＣＡさんに貸さなければ！ときばって買ってしまいました。自身のＨＰに連載していた日記をまとめたもの。冒頭に「買ったらソンするよ」という作者の注意書きどおり、まぁ内容はないがごとし。でも引越し時にソファに座って付いてきた青白い顔の少年はなんだかおかしかった。吉田戦車さん描くところのキャラをしっかり想像してました。ミスチル話が出てくるところもとってもうれしい。ＴＩＣＡさん推薦の乙一、最初はイマイチだったけど今やエッセイも読めるくらい好きです。	☆☆☆ＴＩＣＡさんに感謝感謝。